

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	長谷川潔 1891-1980展 ―日常にひそむ神秘―			担当者名	担当課長兼学芸係長 滝沢恭司			
会期	2022年7月16日(土)～ 9月25日(日)			開催日数	62日間			
協賛・後援・協力	なし							
巡回館	なし							
展覧会概要	長谷川潔(1891～1980)は1910年代半ばに版画家として創作活動を開始、1918年に日本を去ってフランスへ渡って以来パリを拠点に活動した銅版画家。サロン・ドートンヌやフランス画家・版画家協会に所属して創作活動し、パリの画壇で高く評価された。現在は、日本でも版画史上きわめて重要な作家として位置づけられている。本展覧会は、国際版画美術館で収蔵する長谷川の作品と、長谷川が影響を受けた西洋の画家などの関連作品を合わせ、約165点を展示、全6章とコラム6コーナーで展示構成した。							
ねらい・対象	2018年度開催の長谷川潔展は、会期が短つたわりに多くの観覧者があった。本展は、その際に来館できなかった方を含め、さらに多くの方に長谷川潔作品の魅力を知っていただくことを目的に開催した。また、国際版画美術館で収蔵する長谷川潔作品のほぼ全てを展示することで、当館の収蔵品の豊かさをアピールするねらいがあった。長谷川の創作活動の背景や、作品の特徴を浮き上がらせることで、長谷川作品の豊かな精神性を感じていただくねらいもあった。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	講演会	7月30日(土)	開催記念講演会	講師:猿渡紀代子氏(大佛次郎記念館特任研究員)	47			
	普及係:版画体験イベント	8月6日(土)、7日(日)	レース×プレス機でつくる版画	講師:常田泰由氏(版画家)	108			
	プロムナードコンサート	9月10日(土)	版画の神秘・音の神秘	桜美林大学芸術文化学群、玉川大学芸術学部	138			
	ギャラリートーク	7/17、8/21、9/4、18 全4回いずれも日曜日	担当学芸員による展示解説	担当学芸員	103			
	小中学生用鑑賞ワークシート配布	会期中	長谷川潔の版画をたんざく	-	2000枚			
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	800 円	400 円	無料	・初日:7/16 ・シルバーデー(満65歳以上無料):7/27、8/24				
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,572 人	1,833 人	7,405 人	6,563 人	- 人	329 人	513 人	0 人
	目標値			9,576 人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	3,686 千円		— 千円	1,552 千円	— 千円			
事業経費	・報償費			105	千円			計 1,569千円 (+1,701)
	・事業業務委託料 作品額装委託料			481	千円			
	・作成委託料 展覧会ポスター等作成			484	千円			
	・製作委託料 ディスプレイ及び屋外看板作成委託料			499	千円			
	・設置・撤去委託料(他の収蔵品による企画展、ミニ企画展などと年間契約)			(1,415)	千円			
	・広告・宣伝委託料(彫刻刀が刻む戦後日本展と共通契約)			(286)	千円			
主な広報・取材等の講評	NHK日曜美術館アートシーン(8月14日放送)／東京MXTV「私の芸術劇場」(9月23日放送、25日再放送)／読売新聞夕刊「ぎやうりいモール 時・静物画」(8月22日掲載)／朝日新聞「美の履歴書」(9月13日掲載)／ananweb「パリで絶賛! 仏で2つも勲章をもらった巨匠・長谷川潔の「ゾクゾクする版画」」(担当学芸員へのインタビューを中心に編集した記事)ウェブ掲載							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	342 件	4.6 %	20 %	54 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
						97.3 %	98.2 %	89.8 %
主なご意見	別紙のとおり。							

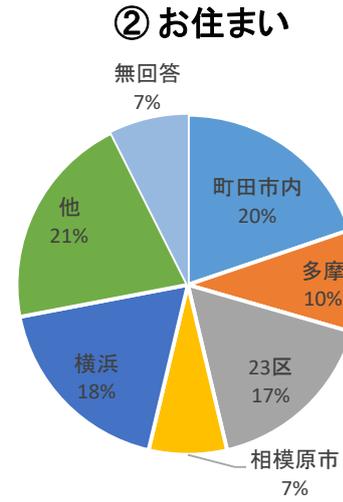
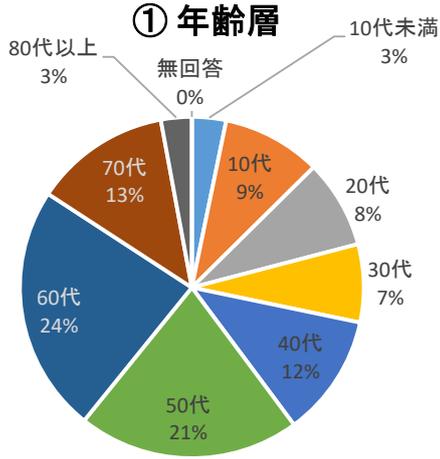
工夫と反省点と改善方法	予備調査	国際版画美術館収蔵の長谷川潔作品全てを再調査し、作品タイトル、サイズ、技法などを再確認した。特に仏訳『竹取物語』については、普通本と特別会員本の違いなどについて細かく調査した。ほか、長谷川潔の画集や関連単行本を調査し、作品理解に努めた。
	作品選択	国際版画美術館収蔵の長谷川潔作品を全て出品することを前提に展覧会を組み立てた。基本的に制作年代順の展示を構想し、「第Ⅰ章 日本時代 文芸雑誌『仮面』の画家 1913-1918」「第Ⅱ章 フランスで銅版画家として立つ 1919-1941」「第Ⅲ章 仏訳『竹取物語』1934(1933)」「第Ⅳ章 日常にひそむ神秘 1941-1950年代末」「第Ⅴ章 精神の高みへ 「マニエール・ノワール」の静物画 1950年代末～1969」「第Ⅵ章 エピローグ」の全6章と、「コラム1 『仮面』および日本版画倶楽部の版画仲間」「コラム2 萩原朔太郎詩集『月に吠える』への共感」「コラム3 青年時代の刺激」「コラム4 エングレーヴィングという超絶技巧」「コラム5 メゾチント技法の作品を比較する」「コラム6 フランスの友人画家」の6つのコラムで展示構成した。長谷川作品は制作年で章分けし、コラム出品の作品は、長谷川が刺激を受けた画家の作品や、長谷川の制作技法の特徴であるメゾチントとエングレーヴィングの関連作品を展示して比較対照できるようにした。なお、第Ⅰ章出品の『仮面』の一部は東京の個人より借用して展示した。
	図録作成	なし。A3二つ折りの出品リストを作成し(館内印刷)配布したほか、章解説、コラムの印刷物を希望者に配布した。また、リスト、章解説・コラム共に公式サイトに掲示して、ダウンロードできるようにした。
	ディスプレイ	章解説(計6枚)、コラム(計6枚)のパネル、他に代表作品35点程度の解説パネルを設置した。また、著作権継承者の承諾を得て、30点以上の出品作品を撮影可とし、随所に案内を設置した。展示で特に工夫したことは、挿絵本・仏訳『竹取物語』について、普通版と特別版の2種類を活用して、可能な限り多くの挿絵頁を展示し、さらに特別版に収められた別刷りなどの挿絵をできるだけ多く展示したことである。その際、別刷りの作品は額装展示し、それ以外はケース展示としたことで、ボリューム感のある展示コーナーになった。英文表示ができなかったことは反省点である。
	広報	ポスター800枚、ちらし30,000枚を作成して配布した。また、「彫刻刀が刻む戦後日本展」に続いて、専門の委託事業者がインターネット上に展覧会情報をアップし、登録メディアが情報を自由にダウンロードできるシステムであるオンライン・プレスリリースを発信した。この方法での広報は、現在のICTに適した手法であり、さまざまなWeb情報事業者が取り上げてくれた。また、ツイッターとインスタグラムに多く投稿し、展覧会の周知を図った。こうした広報の結果として、テレビ番組として、NHK日曜美術館の「アートシーンや東京MXテレビ「私の芸術劇場」で取り上げられた。また『朝日新聞』夕刊の「美の履歴書」で大きく取り上げられた。
	イベント	イベントとして、展覧会開幕直後に、長谷川潔研究の第一人者である猿渡紀代子氏(大佛次郎記念館特任研究員、元横浜美術館学芸員)に依頼して講演会を開催した。また、夏休みの期間中に、普及係により、子どもから大人までを対象者としたレース模様の図柄を刷る創作体験イベントとして「レース×プレス機でつくる版画」を実施した(講師は版画家の常田泰由氏)。そのほか、恒例となった桜美林大学と玉川大学の学生による演奏会をプロムナード・コンサートとして開催し、盛況であった。担当学芸員によるギャラリートークを全4回実施した。
	作品輸送	特になし。
	展示撤去	展示は7月13日から15日までの3日間、それぞれ4名・4名・3名のヤマト運輸専門作業員、ディスプレイ会社の商華堂スタッフとともに行った。展示作品数が多いことやケース展示が多かったこと、照明の微調整などで時間的に余裕はなく、展示最終日19:00頃に終了した。展示のレイアウトは、ほぼ計画通りにできた。撤収作業は9月27日に4名のヤマト運輸専門作業員と商華堂スタッフとともに行い、17:00頃には無事終了した。
その他特記事項	・小中学生用鑑賞ワークシート「長谷川潔の版画をたんさく」を無料配布し、鑑賞の手助けとした。	

「長谷川潔 1891-1980展 一日常にひそむ神秘」

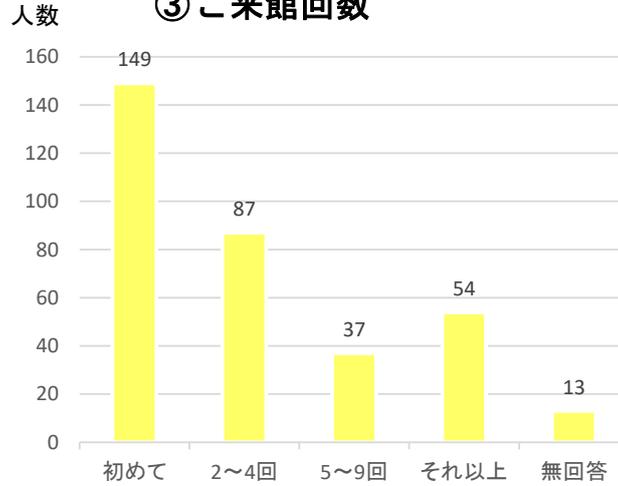
アンケート集計結果

開催期間：2022年7月16日（土）～9月25日（日）

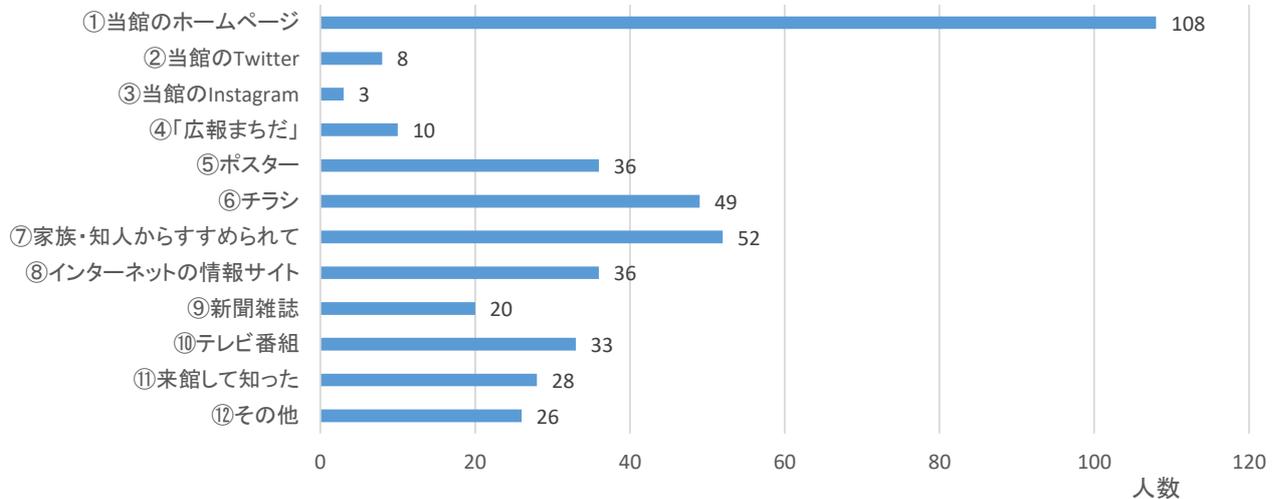
回答者数： 342 人（総入館者数：7,405人 アンケート回収率： 4.6%）



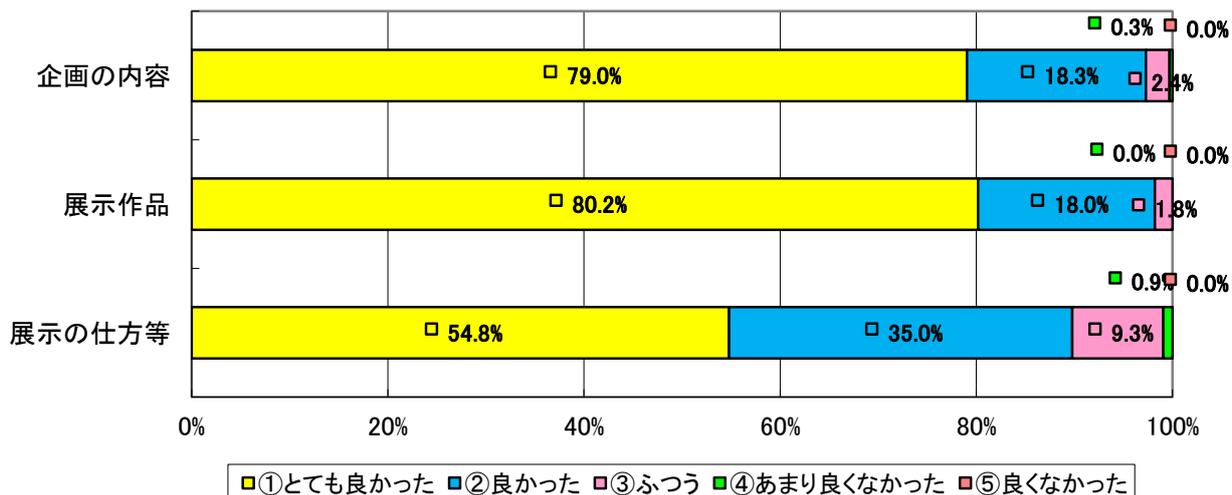
③ ご来館回数



展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆企画の内容

- ・長谷川潔の作品をたくさん見ることができてたいへんうれしい。これからも取り上げてほしい。
- ・すばらしい企画をありがとう。いつも楽しい企画展を開催してくれてありがたい。もう一度見に来たい。
- ・初期から晩年までの作品展示が充実していた。面白かった。
- ・いろいろな国の作品や挿絵などが見られてよかった。思ったより楽しめた。
- ・横浜美術館で教育ボランティアをしている。長谷川潔について調べているので参考になった。
- ・展示構成、作品数、補足情報もすべて素晴らしく、遠路来たかいがあった。・制作年代順の展示がよかった。
- ・細かな技法の版画をたくさん見られ、料金以上の価値ある展覧会だった。
- ・素晴らしい展覧会で、日常を忘れて作品の世界に入り込むことができた。最高の時間を過ごすことができた。

◆展示作品

- ・長谷川潔作品に感動した。・ゆっくり名作と向き合う時間が持てた。
- ・エングレーヴィングやメゾチントが圧巻だった。貴重な企画展だった。
- ・長谷川の人生観も含めて面白く、作品も見ごたえがあった。
- ・見ているうちに引き込まれた。・とても素敵な作品ばかりで、楽しかった。
- ・散歩に来て立ち寄った。初めて知る版画家だが、作品に感動した。

◆展示の仕方やキャプション

- ・解説パネルが分かりやすく、他の画家との交流もわかってよかった。
- ・キャプションの文字の大きさなど少し工夫してほしい。
- ・写真撮影可の表示が分からない人がいた。・別の作品(撮影許可以外の作品)を撮影したかった。
- ・近くまで寄ってしっかり見られてよかった。
- ・銅版画の制作過程の展示があると作品がもっと理解できる。・技法展示などがあると良い。
- ・中学生も楽しめるワークシートがあり、とても分かりやすかった。
- ・解説文字がもう少し大きい方が読みやすい。細部までわかるように、拡大した展示があると良かった。
- ・コラム、キャプションがとてもよかった。より作品に近づけた気がする。
- ・『竹取物語』の写真可・不可が分かりづらかった。以降、集中できなかつたのが残念。

◆その他、感想・要望など

- ・もっと他市への宣伝をしてほしい。・美術館までのインフォメーションをもっと増やしてほしい。
- ・写真撮影は禁止にしてほしい。・写真撮影ができるようにしていただき、ありがたい。
- ・図録は必ず発行してほしい。
- ・版画美術館大好きです。・美術館は市民の誇りです。・素晴らしい美術館で、また来たい。
- ・年間パスポートやペアチケットを販売してほしい。・入館料が高すぎず。市民割引、シルバー割引などがあるとよい。
- ・普段美術館にあまり行かないが、夏休みを利用して訪れ、作品の数も多くあり良かった。
- ・料金がリーズナブルで、スタッフの対応がとてもやさしく楽しい時間が過ごせた。

2022年度 後半期 ・ 普及事業 2022年10月～2023年3月

2023年1月18日
町田市立国際版画美術館 運営協議会資料

- 1 版画講座
版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的としています。子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況 (感染症対応)	定員 (当初予定定員)	参加延人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	参加費
1	木版画一日教室①	一般 (高校生以上)	彫刻刀やバレンの持ち方から、絵具の溶き方、刷毛の使い方まで、版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。単色または2色摺りの年賀状を制作。下絵は講師が複数用意し、好きなものを選ぶ。彫りから摺りまで、ハガキ30枚程度を制作する。講師：木下泰嘉(版画家)	12/6(火) 10:30～16:00	定員増	16人(15人)	15人	—	3,000円
2	木版画一日教室②			12/7(水) 10:30～16:00	定員増	16人(15人)	15人	—	3,000円
3	創作講座 銅版画 -版の痕跡を思考する-	一般 (高校生以上)	エッチングとアクアチントを中心に、銅版画の基本的な制作プロセスから雁皮刷りなどの応用技法までを学ぶ。制作点数は2点。講師には受講生それぞれが目指す絵作りに沿った指導をしていただいた。9回目に本刷りを行い、10回目は1人ずつ自作を前に感想を話し、それに対して講師がアドバイスする鑑賞会を行った。講師：濱田富貴(銅版画家)。	9/14～11/16 13:30～16:30 (水曜日 10回)	定員増	14人(8人)	128人	—	30,000円
4	子ども講座②-みてみてつくり 「自然の絵本をつくる」	小学3～6年生	企画展「自然という書物」関連催事。展示会を学芸係学芸員の解説で鑑賞したのち、薄紙に色鉛筆を使ったプロッターージュをし、それを小さな本にする。最後に自作について一人ずつ発表。ボランティアのまちだサポーターズは鑑賞中の子どもの見守りや制作補助を行う。感染症対策のためスペースがとれる講堂で実施。講師：杉浦幸子(武蔵野美術大学芸術文化学科教授)。	2023年3/18(土) 13:30～16:00	実施前	16人(15人)	実施前	16人 (見込)	1,000円

- 2 学校教育への協力
町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況 (感染症対応)	参加人数 (当初予定)	参加延人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	参加費
1	リトグラフ実習	東京学芸大学 教育学部 美術講座の学生	アルミ版によるリトグラフの基本的な制作方法を学ぶ。1版単色刷(色インク)にベタ版を加えた2色刷りを制作する。	2023年2/21(火)、3/1(水) 10:15～16:00	実施前	9人	実施前	—	3,000円

- 3 作品展
講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。

	事業名	対象	概要	会期	実施状況 (感染症対応)	出品状況	来場者数 (見込)	小中学生 (見込)	観覧料
1	第36回 町田市公立小中学校作品展	どなたでも	町田市内の公立小中学校の児童・生徒による作品展。子どもたちが学校で学習した美術、図画工作、書写の意欲溢れる作品を展示する。 <参加校> 町田市立小学校および中学校 <出品作品> 上記学校の授業等で児童・生徒が作った水彩画、版画、デザイン、ポスターなどの平面作品ならびに中学生による工芸、彫刻などの立体作品。および小学生の書写作品。 <会場> 企画展示室1 主催＝町田市、町田市教育委員会、 町田市公立小学校教育研究会図工部・国語部、町田市中学校教育研究会・美術部	中学校美術作品展 2023年1/13(金)～22(日)<9日間>	変更なし	20校 平面 約2000点(見込) 立体 約800点(見込)	5,000人	1,300人	無料
				小学校図画工作展 1/27(金)～2/5(日)<9日間>	実施前	42校 平面約1500点(見込)	8,000人	2,500人	
				小学校書写展 2/10(金)～2/19(日)<9日間>	実施前	42校 約3500点(見込)	2,000人	600人	

- 4 イベント、コンサート
気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況 (感染症対応)	定員	参加人数 (実績値)	小中学生 (実績値)	参加費
1	作家招へい事業 公開制作-写真から版画へ-	小学生以上	「版画×写真1839-1900」関連催事。フォトエッチング(感光性乳剤を塗った銅版による写真製版)と、フォトポリマーグラブール(感光性樹脂版による写真製版)で作品を制作する藤田修氏を招へいた。自身の作品紹介を通して、その制作の視点と技法についてお話いただいた後、フォトポリマーグラブールの雁皮刷りを実演して頂いた。	11/26(土) 13:30～15:00	変更なし	60人(入退室自由)	74人	0人	無料
2	版画体験イベント 「版を重ねてつくる、水彩モノタイプ」	どなたでも	ミニ企画展「パリのモダン・ライフ-1900年の版画、雑誌、ポスター」関連催事。ミニ企画展の色彩豊かな作品にちなみ、水彩モノタイプ(水彩絵の具を使ったモノタイプ技法)で3版多色刷りの作品を制作する。事前申込制(先着順)。参加者には事前にミニ企画展(無料)の鑑賞を促す。講師：常田泰由(版画家)。制作時間：約50分。会場：アトリエ。	2023年2月18日(土) 10:20～16:00	実施前	48人	実施前	実施前	500円
3	プロムナード・コンサートⅢ 「2×2=4Hands ピアノデュオ 4つの手で奏でる 音色の世界」	どなたでも	「版画×写真1839-1900」展開連催事 カノンデュオinstars<嘉村えりか、嘉村ゆりえ>(ピアノデュオ) ムソルグスキー「～展示会の絵～よりキーウの大門」、エルガー「威風堂々」ほか	11/12(土) ①13:00 ②15:00 各回30分	定員設定	①75人 ②75人	①77人 ②69人	6人	無料
4	プロムナード・コンサートⅣ 「あなたに贈る至宝のピアノ・ペーゼンドルファーの響き」	どなたでも	「新収蔵作品展」および「第36回町田市公立小中学校作品」関連催事 富岡紀香(ピアノ) 企画展に関連したプログラムを予定	2023年 2/19(日) ①13:00 ②15:00 各回30分	定員設定	①75人 ②75人	実施前	実施前	無料

5 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概要	実施日数	実施状況 (感染症対応)	定員	参加人数 (実績値)	版種内訳	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供。各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できる。毎週木曜、日曜、月2回の火曜に実施。9時30分～17時30分(9時30分～13時30分と13時30分～17時30分)	61回実施	変更なし	銅版画10人 リトグラフ6人 スクリーンプリント8人 木版画2人	10～12月 1048人 (利用率 67%)	銅版画503人 リトグラフ193人 スクリーン293人 木版画59人	半日：1,250円 一日：2,500円

6 その他事業

No	事業名	対象	概要	実施日程	実施状況 (感染症対応)	来場者数		参加費
1	第24回 ゆうゆう版画美術館まつり	どなたでも	友の会との共催事業。国際版画美術館を拠点に町田市内外に“美術を愛する人々の交流の輪”を広げることが目的とする。チャリティアートショップ、コンサート、子供向けワークショップなど館内でさまざまなイベントを実施。町田時代祭り(10月23日)、文学館まつり(10月23日)、生涯学習センターまつり(10月22、23日)と同時期に開催	10/22(土)、23(日)	変更なし	5,007人		無料

2022年度後半 作品収集状況

以下の作品が、2022年10月20日開催の2022年度第1回美術資料収集委員会で承認され、収蔵されました。

寄贈作品

No	作品概要	作品点数	評価額（円）
1	川瀬巴水 「霧之朝(四谷見附)」	1	400,000
2	畦地梅太郎 「石鎚山」	1	850,000
3	浜口陽三ほか現代日本版画	4	600,000
4	和田誠 銅版画作品	21	810,000
5	相笠昌義 「都会人のためのモニュマン67-I」	1	100,000
6	ヨルク・シュマイサー『古事記』	28	1,200,000
7	森光子 詩画集『天空の五指』	12	150,000
8	文月恵津子『Phenmenon』	14	70,000
	計	81	4,180,000

2022年度国際版画美術館事業報告書【講座・イベント版】

プログラム名	第24回 ゆうゆう版画美術館まつり					
主催者	「国際版画美術館友の会」と「国際版画美術館」の共催	人数	5,007人			
開催日時	2022年10月22日(土)・23日(日) 10:00～16:00		場所	町田市立国際版画美術館と前庭		
実施概要						
	イベント	日時	内容	場所	人数	備考
①	開会式	10/22(土) 10時～	・主催者挨拶 ・副市長挨拶 ・市議会副議長挨拶	—	—	
②	チャリティーアートショップ	10/22(土)、23日(日) 10時～16時	手作り品・体験ショップ 11店舗出店	前庭	1525	チャリティーは52,000円を町田市社会福祉協議会へ寄付。
③	木版画摺り体験	10/22(土)、23日(日) 10時～16時	個別指導で、はがきサイズの木版画の「多色摺り」を体験。	アトリエ	389	
④	紙版画 ペーパークラフト	10/22(土) 10時～16時	写真用紙を使用した紙版画づくり。	エントランス	60	
⑤	大事な写真をケースに入れよう	10/22(土) 10時～16時	開催中の企画展にちなみチェキで撮影した写真のケースを作成する工作イベント。	エントランス	70	
⑥	市域学生アートイベント 玉川大学 『ワンダーワールド』	10/22(土)、23日(日) 10時～16時	時間・空間・色彩3つのブースを巡りながら、当たり前前の価値観、秩序考え直させるアートワークの展示。	前庭	1044	
⑦	市域学生アートイベント 桜美林大学 『草の根国際理解教育支援プロジェクト』	10/23(日) 10時～16時	パネル展示『世界の多様な「物」を見つめて発見しよう』	講堂	—	
⑧	町田市立博物館 「陶片ペンダントを作ろう」	10/23(日) 10時～16時	素焼きの陶片にマジックペンで絵を描き紐を通してペンダントを作る体験講座。	前庭	289	
⑨	文化振興課・公園緑地課 「芹ヶ谷公園パークミュージアム」	10/22(土) 10時～16時	芹ヶ谷公園で定期的に開催しているイベントについてのパネル展示。	前庭	80	
⑩	ポスターデザイン表彰式	10/23(日) 11時～12時	まつりデザインコンテストに入賞した作品の表彰式。	エントランス	60	応募した全作品は、2日間にわたり展示。市長賞(最優秀賞)が、今回のチラシ・ポスターとなっている。
⑪	ゆうゆうコンサート 『フルートと仲間たち』	10/23(日) 第1部:13時～13時半 第2部:14時半～15時	フルート・オーボエ・ピアノによる重奏。	講堂	346	各回観客座席70名で実施したが好評により立ち見客も追加した。
⑫	福祉作業所出店	10/22(土)、23日(日) 10時～16時	喫茶けやき、小麦の家、ラ・ドロン	けやき店内・前庭	380	
⑬	ゆうゆう名画座	10/22(土) 10時～16時	日本版画界のレジェンドによる版画技法を映像で紹介。	講堂	—	
備考	<p>・今年度は、コロナウイルス感染防止対策を取りながらも、昨年度は制限していた入場規制を解除した。また、中止していたアートバザールを再開した。</p> <p>・3年ぶりに町田駅周辺で行われる4つのまつり(「町田時代祭り(芹ヶ谷公園)」、「文学館まつり(町田市民文学館)」、「生涯学習センターまつり(生涯学習センター)」、版画美術館まつり)が同時期に開催となったため、4つのまつりを巡るスタンプラリーを行った。</p> <p>・前庭では大道芸によるパフォーマンスやシャボン玉発生装置の設置により、にぎやかな空間を演出した。</p>					
事業経費	●負担金 850千円					
主な広報・取材等	朝日新聞首都圏版マリオン・ショッパー・武相新聞など					

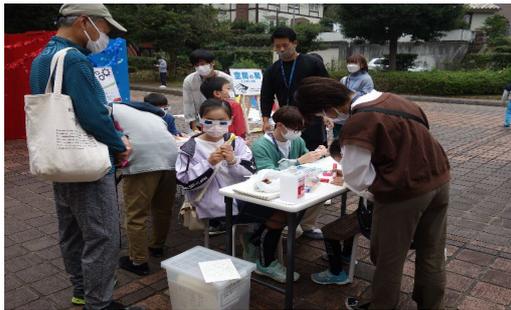
まつりの様子



前庭・入口の様子



副市長挨拶



玉川大学アート・イベント



桜美林大学 パネル展示



紙版画



木版画摺り体験



ゆうゆうコンサート

2023年度展示事業計画

(1) 企画展

※有料企画展の各初日、開館記念日=4/19、文化の日=11/3、市制施行記念日=2/1は無料。
シルバーデー[毎月第4水曜日]は、65歳以上無料。中学生以下は全展覧会無料。

No	展覧会名	会期	展示資料概要	企画概要
1	自然という書物 15～19世紀のナチュラルヒストリー&アート展	3月18日(土)～5月21日(日) <56日間> ※2023年度 44日間 ■無料日: 展覧会初日・3/18(土) 開館記念日・4/19(水) ■シルバーデー: 3/22、4/26	15～19世紀に刊行された植物や動物の図鑑をはじめ、図鑑と絵画の要素が混交したゾートンの『フローラの神殿』や、草花の装飾モチーフが紙面を彩るクレインの挿絵本など約200点(展示替え、書物のページ替えあり)。	人間が表してきた自然のすがた・かたちを一堂に会する展覧会です。美しい花々や珍しい生き物、異国の自然環境などは、古くから言葉と絵によって記述され、さらに版画と活字によって広められてきました。また自然は今日に至るまで美術の靈感源となり、私たちの目を楽しませてきたといえます。自然と美術の魅力的な関係を、西洋の書物と版画から浮かびあがらせてます。
2	出来事との距離―描かれたニュース・戦争・日常	6月3日(土)～7月17日(月・祝) <39日間> ■無料日: 展覧会初日・6/3(土) ■シルバーデー: 6/28	月岡芳年『魁題百撰相』、ゴヤ『戦争の惨禍』など、古今東西の戦争や報道を描いた作品約150点を当館収蔵品を中心に紹介します。	ニュースや戦争を描いた作品に触れると、時代や立場によって表現できることが違うことに気づきます。例えば時事が描けなかった江戸の浮世絵では、過去になぞらえ現代を描きました。また時が経ったことで伝えられる当事者の経験もあるでしょう。古今東西のアーティストがこうした出来事にどう向き合ったか、当館収蔵品を中心に探ります。あわせて今日においてこうした視点をもって制作する若手アーティストの作品も紹介します。
3	版画家たちの世界旅行―古代エジプトから近未来都市まで	7月22日(土)～9月24日(日) <56日間> ■無料日: 展覧会初日・7/22(土) ■シルバーデー: 7/26、8/23	館蔵品約140点で構成。16～20世紀の西洋で制作された風景版画と、それに関連する同時代の諷刺画等をご紹介します。	本展覧会は、16世紀から現代までの版画を展示し、西洋における風景表現の移り変わりを旅するように楽しんでいただく夏休み企画です。特に自然・遺跡・都市といった題材に着目し、芸術家たちが紙上に表した多種多様な風景をご紹介します。 *なお本展は、新型コロナウイルス感染症の影響により約1か月で閉幕となった2021年の特別展『#映える風景を探して―古代ローマから世紀末バリまで』をベースに再構成しています。
4	楊洲周延展	10月7日(土)～12月10日(日) <55日間> ■無料日: 展覧会初日・10/7(土) 文化の日・11/3(金) ■シルバーデー: 10/25、11/22	楊洲周延の浮世絵版画や肉筆画約280点(展示替えあり)	本展覧会は、幕末から明治に活躍した浮世絵師・楊洲周延(1838-1912)の回顧展です。高田藩(現・新潟県上越市)江戸詰の藩士の家に生まれた周延は、戊辰戦争で幕府側の神木隊士として戦うなど絵師としては異例の経歴を経て、明治10年頃より本格的な画業を開始しました。若き日より三代豊国や豊原国周に師事し歌川派の伝統を学んだ周延は、彼の真骨頂である美人画から役者絵、歴史画、戦争絵、時事画題、そして江戸懐古の風潮に基づく江戸画題まで、多岐にわたるテーマに取り組み、まさに「明治」という時代を描き尽くしました。本展では、知られざる周延の画業を包括的に紹介し、文明開化と江戸懐古のはざまに残された作品の魅力をたどる機会とします。

No	展覧会名	会期	展示資料概要	企画概要
5	新収蔵作品展	12月21日(木)～ 2024年2月18日(日) <45日間> ※会場: 企画展示室2	新収蔵作品約70点	作品収集事業は展示事業とともに国際版画美術館の重要な事業のひとつです。 この展示では新たに収蔵された作品をお披露目し、市民の皆さまに収集事業についてご紹介することを意図しています。 2022年度後半から2023年度にかけて新たに収蔵された作品を展示いたします。
6	第37回 町田市公立小中学校 作品展 ◇主催 町田市 町田市教育委員会 町田市公立小学校教育研究会・ 図画工作部、国語部 町田市中学校教育研究会・美術部 ※学校連携事業 (普及係担当事業)	2024年 1月12日(金)～ 2月18日(日) <27日間> ①中学校美術作品展 1/12(金)～1/21(日) <9日間> ②小学校図画工作展 1/26(金)～2/4(日) <9日間> ③小学校書写展 2/9(金)～2/18(日) <9日間>	①町田市立中学校の生徒による美術作品。水彩画、デザイン、版画、立体など ②町田市立小学校の生徒による図工作品。水彩画、クレヨン画、版画、立体など ③町田市立小学校の生徒による書写作品。	児童・生徒の日頃の学習成果の発表の場。学校を超えて互いの作品を鑑賞することで、児童・生徒の豊かな心を育て、教職員の研究を深める機会にします。 保護者及び市民に、美術・図工・書写教育に対する理解を深めてもらいます。 町田市の子供たちが将来の文化を担う素地を養い、市民文化がますます発展することを願って行います。
7	版画の青春 小野忠重と版画運動展	3月16日(土)～5月19日(日) <56日間> ※2023年度 14日間 ■無料日: 展覧会初日・3/18(土) 開館記念日・4/19(金) ■シルバーデー: 3/27、4/24	小野忠重旧蔵で、現在も遺族のもとにある「新版画集団」と「造型版画協会」出品作家の版画約180点と関連資料を中心に展示予定。小野忠重作品については国際版画美術館所蔵作品に加え、東京国立近代美術館や神奈川県立近代美術館所蔵の作品を借用する予定です。	昭和期に活躍した版画家であり版画史研究者でもあった小野忠重(1909-1990)を中心に1932年に結成されたグループ「新版画集団」、そしてその発展的グループとして1937年に結成され、戦後1950年代まで活動が続いた「造型版画協会」、これら二つの集団の版画運動の歴史的、美術史的意義を検証する展覧会です。

(2)ミニ企画 (常設展示室、入場無料)

	企画名	会期	展示の概要
1	I期 日本の自然と多色摺木版の世界	2023年3月15日(水)～ 6月11日(日) <77日間> *2023年度 15日間	行ってみたいくなる風景や愛らしい花や鳥など、近世日本の版画と版本に描かれた自然の造形を紹介します。(展示替えあり)。
2	II期 大正・昭和初期の東京風景 織田一磨を中心に	6月14日(水)～ 9月24日(日) <90日間>	企画展「版画家たちの世界旅行—古代エジプトから近未来都市まで」開催にちなんだミニ企画です。大正から昭和初期の東京の風景を描いた織田一磨(1882-1956)の作品を中心に約40点展示します。
3	III期 腐蝕の刻(とき)—エッチングの世界	9月27日(水)～ 12月17日(日) <71日間>	描画した版材を腐蝕することによって生まれるエッチングの表現の魅力を、古今の作例を通じて紹介します。
4	IV期 現代の作家シリーズ 黒崎彰 50年の軌跡	12月21日(木)～2024年3月 10日(日) <63日間>	版画家として版画研究者として、日本の版画界を牽引し続けた黒崎彰(1937-2019)の作品40点を展示。
5	2024年度 I期 日本のグラフィック・デザイナーと版画	3月13日(水)～ 5月19日(日) <59日間> *2023年度年度 17日間	永井一正(1929生まれ)、横尾忠則(1936生まれ)、和田誠(1936-2019)ら日本を代表するグラフィック・デザイナーの版画を紹介。

2023年度 普及事業

2023年1月18日
町田市立国際版画美術館 運営協議会資料

1 版画講座

版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的にしています。子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	参加人数(年間見込)	参加費
1	一日教室	一般(高校生以上)	版画の基本的な制作を一日で体験します。初心者から楽しめます。	銅版画 6/9(金)、6/10(土) リトグラフ 9/1(金)、9/2(土) 木版画(年賀状) 12/5(火)、12/6(水)	68人(各回定員:銅版10、 リト8、木版画16)	3,000円
2	創作講座	一般(高校生以上)	応用技法や多色刷りで、じっくりと作品制作に取り組む長期の講座です。	リトグラフ 9/13~11/15(水10回)	100人 (定員10人)	30,000円
3	子ども講座	幼児・小学生	「子ども講座」は版を使った制作をじっくりと楽しむものと、展覧会を鑑賞し、それにちなんだ簡単な制作を楽しむものを行います。「夏期子ども講座」は東京学芸大学の学生と2日連続で実施した後、子どもたちの作品と指導をおこなった学生の版画作品を市民展示室で展示します。	子ども講座: ①5/6(土)、②2024年3/30(土) 夏期子ども講座: ①7/29(土)、②30(日) 作品展示8/8(火)~12(土)	64人 (各回定員16人)	1,000円

2 学校教育への協力

町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概要	実施日程	参加人数(年間見込)	参加費
1	版画講座	中学、高校の美術部など	学芸員が版画の制作を指導します。夏休みの校外体験学習として毎年10校程度が来館しています。15名程度が参加できます。	依頼校との調整により決定。 夏休み期間中のほか、土曜日など。	60人	500円
2	教員研修会等への協力	町田市内の小中学校など	図工や美術の教員研修会に対して、会場の提供、講師の紹介、版画の道具の貸出しなどを行っています。	夏休み期間中など。年間2~3回	40人	—

3 作品展

講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。小中学校作品展では、美術館を会場とし美術館職員がかかわることで、より質の高い展示を目指しています。

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	来場者数(見込)	観覧料
1	夏期子ども講座作品展	どなたでも	夏期子ども講座の受講生と指導をおこなった東京学芸大学の学生による作品展。 会場:市民展示室	8/8(火)~12(土)	250人	無料
2	第37回 町田市公立小中学校 作品展	どなたでも	町田市立小中学校の児童・生徒による作品展。水彩画、デザイン、ポスター、版画、立体。 および小学生の書写。会場:企画展示室1 主催:町田市/町田市教育委員会/町田市公立小学校教育研究会国語部・図画工作部/町田市中学校教育研究会美術部	中学校美術作品展 2024年 1/12(金)~21(日)<9日間> 小学校図画工作展 1/26(金)~2/4(日)<9日間> 小学校書写展 2/9(金)~18(日)<9日間>	15,000人	無料

4 イベント、コンサート

気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	参加人数(見込)	参加費
1	プロムナード・コンサート	どなたでも	エントランスホールで企画展にちなんだ曲等を演奏します。	年間4回	600人	無料

5 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概要	実施日数(予定)	参加人数(年間見込)	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供しています。各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できます。	年間125回	4500名	半日:1,250円 一日:2,500円

6 その他事業

No	事業名	対象	概要	実施日程(予定)	参加人数(見込)	参加費
1	第25回 ゆうゆう版画美術館 まつり	どなたでも	チャリティアートショップ、コンサート、子供向けワークショップなど館内でさまざまなイベントが実施されます。友の会との共催事業です。	10月の土日2日間	5,000人	無料